

# 観光カリスマ塾

## 目的

観光カリスマ塾は、地域のリーダーとして観光地づくりに成功した観光カリスマから、その取り組みのプロセスを観光カリスマの現地で直接講義を受け、意見交換をすることにより、次代の観光まちづくりのリーダーを育成することを目的としています。

## 概要

観光カリスマを講師として、観光カリスマの現地において、20名程度の受講生を対象に、講師となる観光カリスマ自身が策定するカリキュラムを基に、講義・現地視察等を二泊二日(または二泊三日)のセミナー形式で開催します。

〔平成18年度開催地〕：兵庫県豊岡市、愛知県南知多町、熊本県水俣市、島根県大田市、青森県五所川原市、千葉県南房総市、香川県琴平町、北海道倶知安町、新潟県村上市

### 青森県五所川原市会場



講義会場は津軽鉄道「ストーブ列車」



モンペ、角巻き、かんじきが正装「地吹雪体験」



### 兵庫県出石町会場



受講生同士のネットワークづくりに貴重な機会



手作りの昼食は出石名物「皿そば」



## 受講資格は？

自治体関係者、観光関連業界の方、学生の方など、地域の特色を活かした観光振興や地域の活性化、魅力のあるまちづくりに熱意のある方ならどなたでも受講できます

## どんな内容？

- ・観光カリスマの取組活動などの講義
- ・観光カリスマによる現地視察・現場体験
- ・受講生によるグループミーティング
- ・地元の関係者との意見交換会  
など、観光カリスマと地域が取り組んできたことを「体験」できる構成になっています

# 平成18年度「観光カリスマ塾」開催例

- 開催地 愛知県南知多町日間賀島
- 開催期間 平成18年10月25日～26日
- 塾長 「観光カリスマ」中山 勝比古  
(日間賀観光ホテル社長)
- 受講者数 30名



塾長 中山勝比古氏



真剣な表情の30名の受講者



塾長とコーディネーター  
山本勝子氏



日間賀島のシンボル「たこ」のモニュメントに全員集合

## 【10月25日(水)】

14:30	開講式 (会場 日間賀島漁協 会議室) ・塾長挨拶 【観光カリスマ 中山 勝比古氏】 ・地元歓迎の挨拶【南知多町長助役 松田 良男氏】
15:00	講義1: 「一体となった島づくり・共生の精神」 —異業種の連携・協働による地域づくり— 【講師: 中山塾長】
15:45	講義2: 「日間賀島における観光取組の現状」 【講師: 日間賀島観光協会会長 鈴木 宏之氏】
16:15~ 17:30	グループミーティング: 「異業種共生のあり方」 (テーマ: 「食」・「広報宣伝」・「漁業」)
18:30	交流会: 「食のプレゼンテーション」

## 【10月26日(木)】

8:30	日間賀島関係者と島内視察
10:00	パネルディスカッション: 「地域連携を生かした島の活性化」 (コーディネーター: 知多ソフィア観光ネットワーク代表 山本勝子氏)
11:30	閉講式
~12:00	・修了書授与 【中山塾長】

## ○概要

### 講義「一体となった島づくり・共生の精神」

- ・「自分さえ良ければ」という風潮が現代の格差社会を生み出した。この島では「島が良くなれば自分も良くなる」という考えが根付き、島の良さを理解し誇りを持っている。
- ・1人のリーダーの強いリーダーシップに引っ張られて進んでいくことが多いだろうが、私の考えるリーダー像は、1人1人が参加して個性を生かした競争により、各自が主役になれるような「共生の精神」にたったもの。
- ・今後の課題は全国展開。セントレアの開港もあり全国から来ていただける島にしたい。

### パネルディスカッション「地域連携を活かした島の活性化」

コーディネーター: 「知多ソフィア観光ネットワーク」代表

パネラー: 名古屋鉄道(株)、JAあいち知多、あいち健康プラザ、日間賀島観光協会、中山塾長

- ・名古屋鉄道 …10年前から「ふぐ」商品に取り組んできた。日間賀島のふぐは特徴のある商品。沿線の方々とう島をつなぐ役割を果たしたい。
- ・あいち健康プラザ …新しい旅の形として「健康」を意識した旅づくりに取り組んでいる。「ふぐ」の魅力より先に、安心して食べられる食事の提供を。
- ・JAあいち知多…島の料理は野菜が少ないとの指摘もある。「離島」である課題もあるが、知多半島は温暖な気候から果物や野菜の生産は種類・量ともに豊富。食材提供だけでなくレシビ集も広めたい。
- ・観光協会……料理の品質確保に加え、例えば体験学習の子供達に感動を与えるような料理作りを心がけている。旬の野菜や果物も取り入れ、季節感を出して行きたい。
- ・中山塾長……2日間の「観光カリスマ塾」で一番得るものがあったのは日間賀島かも知れない。島だけでは何もできない。今後も地域に協力してもらいながら取り組んでいきたい。

### ○受講者アンケートより

- ・「危機感を共有して共同体全体の繁栄を追求するのは困難な課題。島が一丸となった取組の経緯を聞くことができ、日間賀島が成功した理由がよく理解できた。(行政)
- ・日間賀島の観光振興は行政主導ではなく、漁業と観光業と島民の生活が上手に関係し合うことで成り立ってきたことがよく理解できた。地域は技術や情報を共有することで、より強くなれるのだと感じた。(宿泊施設)